

★非同盟が最も信頼できるパートナー＝ベラルーシ外務省の説明



ベラルーシ共和国

面積 20.7 万平方キロ(日本の約半分)

人口 約 949 万人(2018 年1月)

1人当たりGDP 5,590ドル

1990 年 ソ連から独立宣言

1994 年からルカシェンコ大統領5選

非同盟運動 (NAM) は、冷戦対決の中で発展途上国の利益を高める目的で 1961 年に設立されました。最初の 30 年間で非植民地化、新しい独立国家の形成、そして国際関係の民主化で重要な役割を果たしました。

現在 NAM には 120 カ国が参加し、その数は国連加盟国全体の約 60%を占めています。そして国際舞台での西側の一方的アプローチと行動に反対する政治集団の位置を占めることを目指しています。

大多数の加盟国は、国際情勢を客観的かつ総合的に評価することを固く守っています。この運動は現在の国際情勢の主要な特徴について、様々な形で資源へのアクセスが制限され圧力が使われていることに焦点をあてています。加えて経済と社会発展、国際平和と安全、国際法の支配を脅かす重大な課題に特に重点を置いています。

ベラルーシ共和国が NAM に加盟したのは 1998 年で、それ以来、第 16 回閣僚会議 (2011 年 5 月、インドネシア) でアゼルバイジャンが加盟するまでは、ただ一つの欧州からの参加国でした。

非同盟運動とその主要加盟国との協力は、ベラルーシの国益追求の上で極めて重要な要素です。この運動に参加することによってベラルーシは、国際的な舞台とりわけ国連で、志を同じくする国々から政治的な支援を受けることができます。国連では多くの重要な決定は投票で行われることを考えると、どれだけの国の支持がえられるかが特に重要なのです。

国際舞台や様々な多国間協議でベラルーシが外交上の利益を成功裏に守り進展させているのは、非同盟のパートナーのおかげです。その最も印象的で本質的かつ古典的な例は 2004 年の秋に遡ることができます。その時ベラルーシは、国連総会で NAM の力を効果的に使って、ベラルーシを標的にした決議案（米国提案、西側支持）を打ち破りました。

ここ数年、非同盟諸国はベラルーシの主要な外交政策を進めるうえで最も信頼できるパートナーとなりました。ベラルーシの主要なイニシアチブのなかには、進歩的な発展にむけた多様な方策の承認、世界的なパートナーシップの確立、人身売買などとの闘いが含まれています。ベラルーシのイニシアチブは、例えば第 15 回首脳会議（エジプト、2009 年）、第 16 回閣僚会議（インドネシア、2011 年）、NAM 調整ビューロー閣僚会議（エジプト、2012 年）、および第 16 回首脳会議（イラン、2012 年）で採択された数多くの戦略文書に反映されています。

ベラルーシは運動の中で、国際法の優位性を支持する立場に確固として立ち、国益を推進するだけでなく、非同盟運動自体をより強固にし、地政学的発展のなかでの役割を強化する仕事に積極的に取り組んでいます。そのような立場は間違いなく、非同盟諸国の中で我が国のイメージを高めるのに役立っています。

非同盟運動の加盟国となることでベラルーシが得ている経済的利益もまた明らかです。非同盟はその構成の政治的な性格から運動のなかで経済的な議題が優位に立つことはできませんが、ベラルーシは着実に非同盟諸国との貿易と経済関係を拡大しています。1998 年以来、自信を持ってアジア、アフリカ、ラテンアメリカの非同盟パートナー諸国の市場へのアクセスを得ています。これらの国々と協力することで、輸入エネルギー源の多様化を通じたエネルギー安全保障の確保などの重要な目的に取り組むことができます。さらに NAM 諸国の市場におけるプレゼンスは、近隣諸国の市場へ移動するための適切な条件を生み出します。

ベラルーシは 1998 年以来すべての NAM イベントに積極的に参加し、会議をさらに価値あるものにするため最善を尽くしてきました。ベラルーシ共和国は、NAM の最も活動的なグループとしての任務を与えられて、多くの交渉、首脳会議その他のイベントで、審議のムードメーカーの役割を果たしているといえるでしょう。

非同盟運動は 2011 年に創立 50 周年を迎えました。その際に NAM は、過去の活動の評価と今後数年間の運動の展望の両方に焦点を当てた特別なイベントをいくつか開催しました。2011 年 5 月下旬にインドネシアが大 16 回閣僚会議を主催しました。また 9 月上旬にはセルビアの主催で NAM50 周年を記念する閣僚会議が開催主催されました。

同様にベラルーシは、2012 年の主要なイベントであった調整ビューロー閣僚会議と第 16 回首脳会議で積極的に活動しました。この首脳会議の準備段階ではベラルーシのイニシアチブで、エネルギー問題についてこれまでにない非常に幅広い議論がおこなわれました。エネルギーに関するベラルーシの具体的な提案は、首脳会議の成果文書に反映されています。

過去数年間の非同盟運動の会合で明らかになったのは、NAM 加盟国がより公平な多極世界にむけて貢献する必要性の認識です。さらに急速なグローバリゼーションや紛争の可能性の増大、エネルギー資源と市場をめぐる世界的な権力抗争といった文脈のなかで、非同盟諸国の利益の推進のため共通の努力を集中することです。

(ベラルーシ外務省の H P から)

(以上)